

2026年2月度 高島屋店頭売上速報

■ 国内百貨店売上高 (前年比 単位:%)

大 阪 店	△0.4	柏 店	※2 △4.9
京 都 店	※1 +3.5	E C 店	+10.4
泉 北 店	+3.5	(株)高島屋各店計	+0.7
日 本 橋 店	+7.0	(株)高島屋各店 既存店計	※3 +2.1
横 浜 店	+4.0	岡 山 高 島 屋	+1.1
新 宿 店	+1.7	高 崎 高 島 屋	+4.8
玉 川 店	△4.8	国 内 百 貨 店 計	+0.8
大 宮 店	+5.9	国 内 百 貨 店 既 存 店 計	※3 +2.1

2022年3月から「収益認識に関する会計基準」を適用しておりますが、店頭売上速報で開示する国内百貨店売上高につきましては、従来の基準(総額売上高)で開示しております。

※1 京都店は「洛西店」の売上高を含みます。

※2 「タカシマヤ フードメゾン おおたかの森店」の売上高を含みます。

※3 本年1月7日に営業を終了した「堺店」の前年実績を控除しています。

■ 概況

○前年比(※既存店対比)におきましては、店頭売上高+0.8%(※+2.1%)、免税売上高△13.0%、免税を除いた店頭売上高+3.2%(※+4.8%)となりました。

○国内顧客は、バレンタイン催事「アムール・デュ・ショコラ」が堅調に推移したことや、中旬以降、春物衣料・雑貨に動きがみられたことで前年実績を上回りました。

インバウンド顧客については、中国による「訪日自粛要請」の影響等もあり、前年実績を下回りました。

○店舗別売上高は、京都店、泉北店、日本橋店、横浜店、新宿店、大宮店、EC店、岡山店、高崎店が前年実績を上回りました。

○商品別売上高(当社分類)は、特選衣料雑貨、宝飾品、呉服、子供情報ホビー、美術、食堂が前年実績を上回りました。